

令和7年度 県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表 (定時制)

目 指 す 学 校 像		10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる							
三つの方針			具体的目標			評 価		次 年 度 へ の 主 な 課 題	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	○10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる							
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○授業計画や授業方法の工夫改善により生徒たちの学習意欲をより高め、学習活動を充実させることで、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ○全教職員が生徒一人一人の状況や動向への把握・理解に努め、働きながら学ぶ生徒の「心の居場所・拠り所」となるよう学校環境の整備を図る。 ○働き方改革を念頭に置き、教育活動の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進めてライフ・ワーク・バランスを一層改善し、公私ともに実りある豊かな生活を目指す。							
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○本校の教育課程(カリキュラム)ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材を受け入れる。							
昨年度の成果と課題		重 点 項 目		重 点 目 標				達成状況	
ここ数年、継続的に取り組んだ結果、全学年にわたり落ち着いて学習に取り組める環境が整備されてきた。 特に中学校在籍時に不登校だった生徒がほとんど休まず登校するようになるなど安心・安全な学校生活の保障ができています。 個別面談を定期的を実施したり、教員間での情報交換の機会を多く設けるなど生徒を支援する体制も整った。 小学校高学年から中学校3年生までに習得すべき学力を習得できていない生徒に対し、希望により「基礎学力補習」を実施することができた。習得状況は生徒によって大きな差が出たが、学び直しを繰り返し行うことによって意欲がより高まる事を期待し、同様の学びの提供を継続したい。		○学習支援の充実に努め、確かな学力の定着を図る。		①授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ②授業内容や支援法の工夫に努めながら支援スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。					
		○進路支援を充実させ、希望する進路の実現に努める。		①個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路支援に努める。特に就職支援・キャリア教育の充実に努める。 ②有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し、自ら進路決定できるよう支援する。 ③キャリア・パスポートを活用し、ホームルームや総合的な探究(学習)の時間で目標設定や振り返りを行う。 ④教員間の情報の共有を促進し、組織力・協働力で効果的な進路支援を進める。					
		○基本的な生活習慣の確立に努め規範意識を培う。		①社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前に行える生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により 落ち着いた学校生活づくりに努める。 ②教員間の協働体制の下、教員が傾聴する姿勢を重視し教師と生徒の信頼関係の構築を図り、多様な背景を持った生徒一人ひとりが、安心・安全に学び続けられる居場所づくりに努める。 ③心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努め、「いじめ」は絶対に許さないという意識の醸					
		○体育・スポーツ活動を奨励し、心身の陶冶と体力向上に努める。		①体育の授業や学校行事に積極的に参加させ、自ら考え行動するなかから運動する楽しさや、仲間との交流の喜びを体感させ、活動意欲の向上を図る。 ②定時制通信制大会への参加を通して、自己の役割を自覚させ、助け合いや協力によって仲間意識を育むとともに、生徒間の相互理解や相互尊重の心、道徳心を養う。 ③校外活動を通して社会環境への関心を高め、意欲的に社会貢献のできる心豊かな人材の育成に努める。					
		○働き方改革を推進し、教職員が健康で働きやすい環境づくりを目指す		①夏季休暇の100%取得、閉庁日の完全実施、年休(時間単位を含む)の積極的取得(15日以上)等、休暇の取得等がしやすい環境づくりを推進する。 ②勤怠管理システムの活用等で教職員の超過勤務の状況を把握し、その改善やその他の課題解決に向けて取り組む。					
		○学校評価を活用し、教職員の授業改善の意識向上に努める。		①生徒による授業評価結果を活用し、授業改善を図る。 ②教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努める。					
教科指導	生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の充実・向上に努める。	生徒の実態に即した学習計画の立案と学習支援法の工夫を図る。							
		学習評価は、観点別学習状況から総合的に評価する。							
		基礎学力補習や進学課外に積極的に参加させる。							
	欠席、遅刻に対する適正な指導を行う。			積極的な授業参加を促し、欠席、遅刻の過多については厳正に対応する。					
	成績不振者に対する適切な指導を行う。			個別面談や家庭との連携を通して、成績不振の原因を把握し、改善策を探る。					

	外国語 (英語)	英語に慣れさせる。	基本的な語彙や文法を理解させる。			
		英語がわかる喜びを味わわせる。	語彙や文法の理解から短文の理解につなげていく。			
		異文化に興味を持たせる。	教科書の内容から文化の違いにも目を向けさせる。			
		生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が８０％以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。			
	家　庭	家庭生活自立能力を身に付けさせる。	自立した生き方を考え「生きる力」を主体的に思考させる。			
		基本的技法を習得させる。	実習を通し、技能と修得の目標とする。			
		生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が８０％以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。			
	情　報	情報活用能力を修得し、情報化社会で活躍できる人材を育成する。	必要な情報を検索、収集し、その情報の正誤を正しく見極められる能力を身につける。			
			収集した情報を加工し、さらに付加価値の高い情報とする能力を身につける。			
			加工した情報を、他人に分かりやすく伝達する能力を身につける。			
評価項目	具　体　的　目　標	具　体　的　方　策	評　価	次　年　度　へ　の　主　な　課　題		
教　　務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を確実に行う。				
		急な年休に対応できるよう、各科目の自習課題を常にストックする。				
		教科・科目の授業時間のバランスを図り、学校行事などの調整を図る。				
	進級率１００％を目指す。	個に応じたきめ細かな支援を行う。				
	授業規律を確立する。	分かる授業の展開。観点別評価規準の明確化。学ぶ姿勢を教える。				
	校内研修の充実を図る。	ＢＹＯＤに対応出来るＩＣＴリテラシーを身につける。				
	生徒の実態に合わせた教育課程を研究する。	生徒・教員による教育課程の評価を点検し、改善すべき点を見いだす。				
	教育活動の公表に努める。	積極的に中学校訪問を実施する。定時制専用の学校案内を作成する。ＨＰ更新の頻度を上げる。				
特別活動	各種の学校行事を通して帰属意識・連帯意識・協調性・責任感を養うことで、社会性の向上を図る。	生徒が学校生活を楽しみ、帰属意識・連帯意識が高まる学校行事を行う。				
		生徒会行事を精選し、企画や運営に生徒がより主体的に参加できるように助言する。				
	キャリア形成を図る。	ホームルームや総合的な探求(学習)の時間にキャリア・パスポートを活用して、過去を振り返り将来像を考えさせる。				
生徒支援	基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻等の多い生徒や生活の乱れの目立つ生徒について家庭との連絡を密にし、その状況把握に努め、面談等を通して生徒一人ひとりに応じた適切な支援を行う。				
	高校生・社会人としてふさわしい言動や社会規範を身に付けさせる。	日々の学校生活の中で、場面場面に応じた効果的な支援に努め、定時制における落ち着いた学校生活の環境整備を図る。				
	迅速な情報収集と的確な対応に努める。	定例職員打合せを通して全職員が生徒の動向を把握、共有することによって、問題の早期発見と早期支援に努める。				
	教育相談の充実	担任は元より、養護教諭やスクールカウンセリングを通して、心の教育の充実を図る。				

進路支援	個々の生徒の能力・適性に応じた進路支援に努める。	進路セミナーの実施などの他、進路別・個別的な進路相談を計画的・継続的に行い、生徒の主体的な進路意識の涵養に努める。			
		進路情報の収集と提供に努め、生徒や保護者への啓発を図る。			
	進学希望者への対応を図る。	進学希望者の実情を把握し、面談を行って希望が実現できるよう支援してゆく。始業前の時間などを利用して、希望者には各教科で個別支援を行う。			
	希望する進路が実現できるように支援を強化する。	就職支援を充実させて、目標を持って就職活動ができるよう働きかける。廊下に進路資料コーナーを作り、日頃から進路についての情報に触れさせる。			
保 健	健康的な生活習慣の定着と、自己肯定感を育む保健支援に努める	健康診断を受けることで、自身の健康を理解させる。自主的な心身の健康づくりの必要性を考えることができる資質・能力を養う			
		心身の発達段階に応じた個別の健康相談を行う。必要であればスクールカウンセラーと連携し、生徒の問題の自己解決の手助けをする。			
		感染症対策は引き続き実施し、感染予防に努めさせる。健康で安心できる学校生活の継続を目指す。			
図 書	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒の読書意欲を高められるよう、図書の案内や、読書環境の整備に努める。新聞や書籍等を教科の授業でも活用する。			
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題	
第 1 学年	基本的な学習習慣を身に付けさせる。	授業に参加することの大切さを理解させ、毎時間目的をもって学習する習慣を付けさせる。			
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	学校生活における基本的な生活習慣を理解させ、集団生活を通じて規範意識を養わせる。LHRの時間や学校行事などの機会を通して人間関係を育てていく中で、他者に対する思いやりの気持ちを持たせる。			
第 2 学年	高校生活に意欲を持たせる。	様々な理由で学校生活に適応できずにくた生徒達であることに留意し、面談を行いながら生徒理解に努め、各人に応じた目的を持たせて高校生としての生活に意欲を持たせる。			
	基本的な生活習慣の確立を図る。	定期的・継続的な遅刻・欠席・挨拶・授業態度等に関する支援を行うとともに、家庭環境・心身の状態に留意しつつ、家庭との連絡を密にしながら適切な支援を行う。			
	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じたゆとりある授業編成を計画するとともに、日々の生徒の学習環境・心身の状態に留意し、授業の大切さを強調しながらその出席率の改善を図る。			
第 3 学年	進路についての意識向上を図る。	個別面談やHR等を通して生徒理解を深め、将来の就労や進学に向け意識の向上を図る。			
	自己実現を図るために、基礎学力の定着に努める。	自己の目標を明確にさせて、意欲的に授業に臨むことができるように支援する。			
	卒業後の進路を見据えて、個々の生徒に応じた進路支援を行う。	適宜進路についての面談を行い、進路実現のために情報を提供して、各人が目標を持って学校生活を送れるよう支援する。			
第 4 学年	挨拶等礼儀作法の大切さを理解させ、身に付けさせる。	学校生活の様々な場面や面接支援などを通して支援してゆき、社会で必要とされるマナーを身に付けさせる。			
	高校生活最後の学年にふさわしく目標・目的を持ったハリのある生活を送らせる。	あらゆる機会にできるだけ個別支援を行う。また、保護者との連携を密にする。機会を見つけて面談を行い、卒業に向けて目標を持った学校生活が送れるよう支援する。			
	進路支援の充実を図る。	各種進路情報を収集し、そのつど生徒に提供する他、面接支援など、希望進路実現に向けた取組を実施する。			
	実社会に適応できる習慣や能力の向上を図る。	あいさつやマナー、協同作業を通じて課題を達成する能力など、卒業後社会人として必要な習慣や能力の向上を図る。			

※評価基準： A＝良好 B＝普通 C＝不十分（問題あり）